

## 新潟県文化祭2025 開幕イベントが佐渡で行われました

8月3日、新潟県文化祭2025開幕イベントがアミューズメント佐渡で開催され、実行委員会として当財団も運営に携わりました。満席のなか太鼓芸能集団 鼓童や佐渡民謡・鬼太鼓、能登の御陣乗太鼓が披露され、フィナーレは全員総出演で県文化祭を祝い、会場から割れんばかりの拍手が起こりました。

### ■ 佐渡民謡合同チーム[結](ゆい)の試み

その中で佐渡民謡14団体が協力し、全38名で一つのステージを作る挑戦がありました。統一踊りではなく、各団体の間合いや踊り方を尊重しながら各々の個性を活かし“佐渡民謡のバラエティの豊かさ”を県文化祭で表現するというものです。団体名は『佐渡民謡合同チーム [結]』と決まり、協力しながら違いを乗り越える稽古の様子がありました。

本番は“宵乃舞”をイメージした「古調・相川音頭」から「佐渡おけさ」へと、物語性のある構成が完成度高く演じられ、会場のお客さんも喜んでいました。出演者側からは「他団体と一緒にやれて本当に勉強になった」という声が多く聞かれ、貴重な経験となったようです。佐渡民謡にとって新潟県文化祭はよい活性化の機会となりました。



組踊も輪踊りも、個々の団体の特徴を一つのステージで成立させ、佐渡民謡の多様さを表現した「佐渡おけさ」



出演者総出演のフィナーレ

令和7年度新潟県文化活動推進事業

### 佐渡芸能に触れてみる

芸能公演とミニワークショップ 1時間

500円 参加費

9/7(日) 14:00~15:00 芸鏡踊り

9/14(日) 14:00~15:00 文弥人形

9/19(日) 14:00~15:00 狂言流派「鷺流」研究会

11/14(金) 18:00~20:00 文弥人形 真明座

11/16(日) 14:00~15:00 相川の春駒 猿八支部

## 「佐渡芸能に触れてみる1時間」が開催中です

「佐渡芸能に触れてみる1時間」は、民謡・鬼太鼓・人形芝居・鷺流狂言など、佐渡の多彩な芸能の見どころを演者が直接紹介し上演とミニワークショップを楽しむイベントとして、毎回好評をいただいている催しです。この秋、佐渡の芸能をいつもより味わい深く楽しんでみませんか。皆様のご来場をお待ちしています。

### ■ 開催レポート—— 佐渡鷺流狂言研究会

狂言流派「鷺流」は、大正時代に中央の狂言界からは姿を消しましたが、佐渡を含む3地方で传承されていました。

「佐渡芸能に触れてみる1時間」ではワークショップの際、希望者が足袋をはいて舞台へ上がり、狂言の型“ナノリ”、“ワライ”、タケノコを抜く動作などを体験しました。アンケートからは狂言に対する気付きを深めたという回答が多く挙がりました。



佐渡鷺流狂言研究会 曲目「清水」



ワークショップの様子



開催情報は財団HPにて

### ■ 今後の開催日程

- 10/19(日)「七色のばちさばき」姐榎
- 11/14(金)「山本家と文弥人形」真明座
- 11/16(日)「祝う芸、語る芸」相川の春駒 猿八支部
- ※オンライン配信のみで現地観覧不可

## 佐渡の文化・芸能を支援する、賛助会員を募集しています!!

佐渡文化財団では、研究・調査、文化・芸能の普及活動等をご支援いただける賛助会員を募集しています。会費は個人1口2,000円、団体・法人1口5,000円です。何卒、ご支援をお願いいたします。



特典：手作りのしめ縄 財団HP通信販売



# 真野の豊田音頭盆踊り・稲鯨の「北野神社祭礼行事」神輿還御が復活しました

## ■ 真野豊田集落 「豊田音頭」盆踊りの復活

8月15日の夜、真野地区豊田集落にある大光寺にて、地域を元気にする有志団体「チーム恋ヶ浦」の企画「夏の夜のつどい」が開催され、長らく行われていなかった大光寺での「豊田音頭」の盆踊りが復活しました。

同音頭は、佐渡を代表する民謡「真野音頭」の前身で、地蔵を背負って踊るのが特徴です。「豊田音頭保存会」が解散以降、継承が危ぶまれる状況でした。そこで、かつてのように大光寺境内で地域の人々みんなで踊ろうと、盆踊りの復活が企画されました。当日は60kgの地蔵も用意され、各々が肩の力を抜いて、楽しく踊っていました。この企画は、地域の方以外でも参加可能ですので、来年もご注目ください。



大光寺の豊田音頭の様子

## ■ 稲鯨集落 「北野神社祭礼行事」神輿還御の復活

8月25日、相川地区の稲鯨集落で「北野神社祭礼行事」（佐渡市指定民俗文化財）が行われ、コロナ禍で中断していた夜の神輿還御が復活しました。北野神社祭礼行事における神輿還御は、昼に村を巡行した神輿が、夜に神社へ帰る儀式で、提灯で先導する青年たちが神輿を押しとどめようとぶつかり合う、迫力ある場面が知られています。この儀式の復活には青年団の強い思いがあり、それに呼応した約60人が平日にも関わらず島内外から集まるなど、稲鯨の「地域のつながり」を感じられる時間でした。



神輿と提灯がぶつかり合う様子

## 花笠踊りの鬼舞(おにまい)を取材しました

9月15日、両津地区下久知集落で久知八幡宮祭礼が行われ、<sup>とうとう</sup>刀刀・花笠踊り・鬼太鼓などの芸能の奉納が行われました。中世の芸能の名残をとどめた<sup>じょうのこし</sup>城腰集落の花笠踊り（県無形民俗文化財指定）のあと、鬼舞（おにまい・おにのまい）と呼ばれる芸能が奉納されます。佐渡の鬼太鼓の5系統の一つ“花笠型”と数えられ、1匹の鬼が腰を深く落とし、ゆっくりとした動きで舞い、太鼓を叩きます。厳かな雰囲気を持ち、伝統の重みを感じさせるものでした。

取材では、室町時代に伝わったという口伝や、伝承経路として壱岐など西日本各地から伝わったとする口伝などを確認しました。

その後下久知鬼太鼓保存会による鬼太鼓が奉納されました。阿吽一對の鬼が交互に舞う渦上型で、リズムカルで勇壮な舞です。鬼が見得を切る瞬間、人々の歓声が大きくなり、辺りは祭りの高揚感にあふれていました。

## ■ 鬼太鼓の現状把握調査を実施しています

当財団では、佐渡市内の鬼太鼓団体に対して、芸能を行える構成人数や道具の状況などを聞き取りする調査を実施しています。祭礼行事・門付けなどで聞き取り調査を行うほか、webフォームを用いた調査も行っています。団体同士のネットワーク作りも行っておりますので、ご協力をお願いいたします。



城腰花笠踊りの鬼舞



下久知鬼太鼓保存会

佐渡文化財団の活動、和楽器貸出、通信販売など詳しくはコチラから

